

# 遠くて近い！ サルと私たちの暮らし

## 解説

### ■本ワークシートの実施方法■

実施場所：学校の教室にて

対象学年：小学校高学年～中学生

準備物：図書やインターネットなど調べ学習ができる環境

私たちの暮らしの中のさまざまなものが、実は世界各地のサルたちとつながっている、、、。そんなこと、考えたことありますか？身近なものが、どこから来たか、考えてみましょう。

## エビフライのエビはどこからくる？

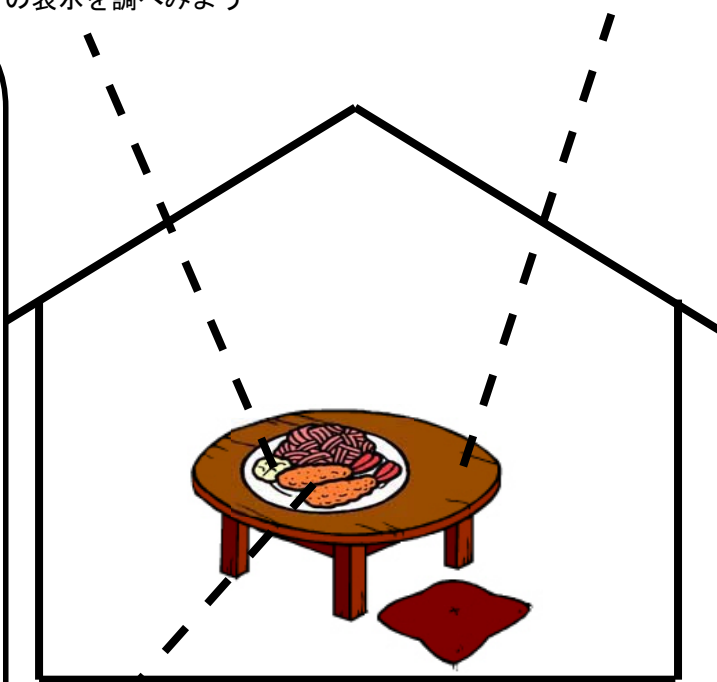
スーパーマーケットや魚屋に行って調べよう！  
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう

### エビの原産国：

アジア諸国の沿岸部  
台湾、インド、インドネシア、マレーシア、中国、ベトナム、タイ、フィリピンなど。

### エビの養殖池：

養殖池は沿岸部に作られるが、原産国のある熱帯、亜熱帯の沿岸部には元々、マングローブ林が発達していた。マングローブ林は津波や高波の影響から森や人家を守り、さまざまな水生生物のゆりかごにもなっている。1980年代頃、マングローブ林が伐採され、次々とエビの養殖池が作られた。現在はかなり規制されているが、未だに伐採は一部で続いている。



### 木材の原産国

(日本への供給が多い国)：  
国産材が20%、外材が80%  
外材のうち、主な原産国は  
1位：カナダ (9,285)  
2位：オーストラリア (8,729)  
3位：ロシア (7,411)  
4位：米国 (6,844)  
5位：マレーシア (5,888)  
6位：インドネシア (4,137)  
7位：チリ (3,952)

※丸太と、製材品やパルプ、チップ等を丸太換算したもの  
の丸太材積を比較  
※カッコ内の数値は単位千m3  
※平成17年度  
財務省「貿易統計」  
林野庁「木材需要表」より引用

## 植物油の元となるパーム油はどこからくる？

スーパーマーケットなどに行って調べよう！  
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう  
※「パーム油」「パームオイル」「アブラヤシ油」などの名称で表示されていることもあります。

### パーム油の原産国：

日本で消費するパーム油は、そのほとんどを輸入に頼っている。日本が輸入しているパーム油の原産国は以下。

- 1位：マレーシア (99.3%)
- 2位：シンガポール (0.6%)
- 3位：インドネシア (0.1%)

※日本貿易振興機構（ジェトロ）2006年年計より引用  
※カッコ内の割合は、金額（円）で比較した値

### パーム油の原料の生産：

パーム油はアブラヤシの実が原料。熱帯雨林やマングローブ林を切り開いたプランテーションでアブラヤシを栽培する。  
※「パーム油」はアブラヤシを原料とした植物油。  
ココヤシ等を原料とした「ヤシ油」とは区別が必要。